Corr: US 3,793,402

⑩日本国特許庁(JP)

① 特許出願公告

⑫ 特 許 公 報 (B2)

昭55-27576

Int.Cl.³C 08 L 51/00

識別記号

庁内整理番号 6958-4J 2040公告 昭和55年(1980) 7月22日

発明の数 1

(全18頁)

1

図多段逐次生成重合体よりなる低ヘイス耐御撃性 組成物

②特 顯 昭47-109811

62)出 顧 昭47(1972)11月1日

公 開 昭48-55233

@昭48(1973)8月3日

優先権主張 1971年11月5日33米国(US) 50196194

砂発 明 者 フレードリツク・ハンマン・オー 10

アメリカ合衆国ニュージャーシー 州ウイリングボロ・ヘウレツト・ レーン68番地

①出 願 人 ローム・アンド・ハース・カンパ 15

アメリカ合衆国ペンシルバニア州 フイラデルフイア・インデペンデ ンス・モール・ウエスト(番地な

個代 理 人 弁理士 塩崎正広

切特許請求の範囲

1 アルキル基が1-4個の炭素原子を有するアルキルメタアクリレート、スチレン、置換スチレ25ン、アクリロニトリル、メタアクリロニトリルおよびこれらの混合物よりなる群から選ばれた単量体を重合させた硬質熱可塑性重合体、又は前記単量体の少なくとも一種の50重量多以上とこれと共重合可能なモノエチレン性不飽和単量体の少な30くとも一種との共重合体の形の硬質熱可塑性重合体約10~96重量多と、下記多段階重合体約90~4重量多とのブレンドよりなる熱可塑性組成物、但し該多段階重合体は、

(A) 前記硬質熱可塑性重合体用の少なくとも1種 35 の単量体70~100重量%、他の共重合性単 量体30~0重量%よりなる単量体混合物を重 合せしめて得られた 2 5 ℃以上のガラス転移温 度を有するエラストマーでない比較的硬質の第 一段階、

2

(B) 第一段階に含まれる生成物の存在下に、ブタ ジェン、置換プタジェン、アルキル基が1~8 個の炭素原子を有するアルキルアクリレートも しくはその混合物 50~99.9重量の、共重合 件のモノエチレン性不飽和単量体0~49.9重 量%、共重合性の多官能、架橋性単量体0~ 5.0 重量%およびアクリル酸、メタクリル酸、 マレイン酸もしくはフマール酸から選ばれた酸 のアリル、メタリルもしくはクロチルエステル から選ばれた共重合性グラフト結合性単量体 0.0 5~5.0 重量 Яからなる単量体混合物を重 合せしめて得られた中間のエラストマー段階、 該エラストマー段階重合体は、第一段階に含ま れる生成物の存在することなく単量体を重合せ しめると25℃又はそれ以下のガラス転移温度 を示すものであり、

20 (C) 上記第一段階および中間段階に含まれる生成物の存在下に、前記硬質熱可塑性重合体用の少くとも一つの単量体 70~100重量%、他の共重合性単量体 30~0重量%よりなる単量体混合物を重合せしめて得られた最終段階、但し 該最終段階重合体は、第一段階および中間段階に含まれる生成物が存在することなく単量体を重合せしめると 25℃以上のガラス転移温度を示すものの 3段階重合体組成物、又は同重合体組成物に前記単量体と同一又は異なる単量体を、現なる割合で重合して得られた硬質又はようストマー重合体を第一段階、中間段階又は最終段階として、互に交互に位置づけられる懇様で附加してなる多段階重合体組成物。

発明の詳細な説明

本発明は硬質熱可塑性重合体組成物に関する。 これらの組成物は、その優れた性質のバランスから使用される。これら熱可塑性物質は、硬いので

製造、加工、輸送及び使用の間に設損を受けやす い。鋭い、高速の衝撃の耐性を与えるためにエラ ストマー物質がこれら硬質熱可塑性組成物に添加 されうることは公知である。これらエラストマー は一般に熱可塑性物質中に不連続相を与え、耐衝 5 撃性を事実上改良するけれどもしばしば透明及び 色の如き光学的性質に有害な影響を与える。エラ ストマー粒子の大きさが制御され及び/又は、エ ラストマー相及び硬質熱可塑性プラスチツク相の 屈折率が合致されても最終生成物中に明らかなへ10 ルアクリレート又はそれらの混合物50ないし イズ(haze)水準が存続する。このヘイズ効果は 湿分、低・髙温曝露及ぴストレスの影響(ストレ ス白化)によつて増大する。光学的に清澄に表わ れる物質でも湿気及び/又は低・高温に曝すと又 はストレスをうけるとヘイズが進む。ヘイズは白15 アリル、メタリル又はクロチルエステルである共 化(whiteness)として表われ、これは試験によ ると単にその表面のみならず物質の全体に生ずる ことが見出されている。白化は湿分、高温又はス トレスに連続曝露すると熱可塑性プラスチツクが 不透明になるまで増加する。遂にはヒビわれを生20体が重合されると25℃又はそれ以下のガラス転 じ物質は破壊される。粒子の大きさ及び/又は屈 折率が制御されていない物質の場合には即ち半透 明又は不透明物質では変性熱可塑性プラスチツク の色は湿分又は低・高温曝露又はストレスをうけ ることによつて変化する。シユミツト(Schmitt) 25 その最終段階はもし単量体が第一及び中間段階を の米国特許第3455544号(1969.5. 20発行)参照。

本発明は、(A)ヘイズ及び特に永久ストレス白化 及び温度によるヘイズの改良された耐性を有し、 これらの改良された性質からグレージング (glazing)物質として特に有用である透明及び 半透明の耐衝撃性熱成形性組成物質及び(B)永久ス トレス白化及び温度による色変に対する改良され た耐性を有する半透明及び不透明耐衝撃性熱成形 性組成物に関する。本発明はモールド、押出、キ35 パーセント、望ましくは20ないし50の範囲に ヤスト等でシート、製品の形の熱可塑性プラスチ ツク組成物にされる組成物に関する。

熱可塑性組成物は、炭素原子1ないし4を有す るアルキル基のアルキルメタクリレート、スチレ ン、置換スチレン、アクリロニトリル、メタクリ 40 量体混合物から重合されたエラストマー段階を含 ロニトリル及びこれらの組合せから選択された単 **畳体の硬質熱可塑性重合体又は少くとも一つのこ** れらの単量体の30重量パーセント以上及び少く とも一つの他の共重合性モノエチレン性不飽和単

量体の重合体を約10ないし96重量パーセント 及び(A)前記硬質熱可塑性重合体用の少なくとも1 種の単量体70~100重量%、他の共重合性単 量体30~0重量%よりなる単量体混合物を重合 せしめて得られた25℃以上のガラス転移温度を 有するエラストマーでない比較的硬質の第一段階、 (B)第一段階に含まれる生成物の存在下に、ブタジ エン、置換ブタジエン、アルキルアクリレートの アルキル基が炭素原子1 ないし8 を有するアルキ 999重量パーセント、共重合性モノエチレン性 不飽和単量体0ないし49.9重量パーセント、共 重合性多官能・架橋性単量体0ないし5.0重量パ ーセント及び α ,eta不飽和カルボン酸又はジ酸の 重合性、グラフト性単量体 0.0 5 ないし 5.0 重量 パーセントよりなる単量体混合物から重合された 中間エラストマー段階で該エラストマー段階はも し第一段階を含む生成物の不存在下において単量 移温度を示すことでさらに特徴づけられている; 及びCC第一及び中間段階を含む生成物の存在下に 上記硬質熱可塑性重合体に述べた単量体の単量体 混合物から重合された最終の比較的硬質の段階、 含む生成物の不存在下に重合されると25℃以上 のガラス転移温度を示すことでさらに特徴づけら れる:---(A),(B),(C)によつて特徴づけられる多 段逐次製造重合体約90ないし4重量パーセント 30 のブレンドよりなる。望ましくは、多段重合体が 第一段階(A)が重量で10ないし40パーセント望 ましくは20ないし40パーセント、第二中間段 ·階(B)が20ないし60パーセント、望ましくは 30ないし50及び最終段階(C)が10ないし70 その段階が存在する三段階組成物である。パーセ ントはすべて三段階重合体の全重量を基準にして

アルキルアクリレート70%以上を含有する単

本発明の透明及び半透明組成物は少くとも 170000 psiの弾性率 (modulus of ajasticity)、耐衝撃性、白色光の良透過性、

湿分、ストレス、温度変化による永久へイズ耐性 に特徴つけられているので優れたグレージング (glazing)物質である。

マイヤー (Myers) 等の特願昭 4 5 -120560号 イド重合体の変性剤である三段、逐次製造重合体 を開示し特許請求の範囲としている。本特許出願 はピニルハライド重合体でない硬質熱可塑性プラ スチツクのブレンドからなる耐衝撃性、熱成形性 組成物及び本明細書に記した多段、逐次製造重合 10 ポイド(microvoids) の形成を妨げると理論 体を指向するものである。

グリイフイン(Griffin)は米国特許第一 3450796号(1969.6.17)で両段 階か乳化で製造されており、その上にエラストマ 一段階を有する重合体を開示している。硬質熱可 塑性重合体は次いで乳化製造 2 段階重合体の存在 において懸濁重合によつて形成される。本発明の 実施において、少くとも10重量パーセントの硬 合体との機械的プレンドによつて製造された組成 物及び少くとも10重量パーセントの硬質最終段 階を有する逐次製造重合体の存在下において単量 体を重合した熱可塑性重合体を形成して製造した ラストマー段階を有する重合体の懸濁中で単量体 を重合して熱可塑性重合体を形成して製造した組 成物に比較して、改良された耐衝撃性、永久スト レス白化耐性を示すことが見出されている。

し特許請求している「ソフト(Soft) 第一段階 を有する重合体の改良である。オーエンスにより **特願昭45-120560号(1970年12月** 28日出願)に開示されている重合体は、浸漬又 は高湿度に曝すことによる水への曝露及びウエザ 35 合によつて製造され予め形成されたラテツクス及 リングによる色及び/又は透明度及び耐衝撃性を 保持する硬質熱可塑性プラスチツクであるが、こ れらの物質は低・高温で及びストレスをうけてへ イズ値の増大を示す。かかるヘイズ値の増大は清 登物質時にグレーシング物質に好ましく、く及び 40 さつている。かように、本発明の逐次製造重合体 かかる物質の色の均一性に変化を起すので半透明 又は不透明物質において好ましくない。本発明の 組成物は、多段、逐次製造重合体を含有している ので、「ソフト」第一段階を有する先行重合体の

利点・即ち耐衝撃性の良い保持及びウエザリング 及び/又は水への曝露で低ヘイズを有し、さらに 低・髙温及びストレスをうけたときに低へ1 ズ値 を示す透明物質及び低・高温及びストレスをうけ (1970年12月28日出願)はビニル・ハラ 5 たときによい色の均一性を有する半透明又は不透 明物質に利点を有する。かかる多段階、逐次製造 重合物がこれらの利点を有する理由は完全には明 かではない。しかしそれは相の附着がかかる系に おいて増大され、この増大された附着が『ミクロ づけられる。さもないと、これは永久ヘイズの結 果となり、及びヒビ割れの生成を殖し、逐には物 質の破壊に導くであろう。多段階、逐次製造重合 体において『ミクロポイド』は重合体がストレス ー段階が重合される硬質熱可塑性プラスチツク第 15 をうけ及びストレスが除かれたときに形成されず 永久へイズを生じない結果となる。本発明の多段 階、逐次製造重合体において、中間段階の層が硬 質の第一段階コア(core)をとりまき、又は殆ん ど取り巻き、最終段階の層が中間段階を取り巻き 質最終段階を有する逐次製造重合体の熱可塑性重 20 又は殆んど取り巻いて層間の附着水準が得られる 層となつた球状(ball)を与えること、及び層が 相互に密接に附着していると『ミクロボイド』の 生成はストレス又は温度変化の過程で及ぼされる より多くのエネルギーを要求すると理論づけられ 重合体組成物の両者は二段、逐次製造した最終エ 25 る。かかる説明及び理論的考慮は本発明の一部を 構成するものではなく又これらの範囲を束縛する ものと考えるべきではない。

本発明の重合体は多段、逐次製造重合体を製造 する公知技術、例えば予め形成された重合生成物 本発明の組成物はオーエンス (Owens) の開示 30 の存在下に次後の単量体の混合物を乳化重合する ことによつて製造することができる。本明細書中 の『逐次乳化重合した『又は『逐次乳化重合生成』 なる語は水性分散又はエマルジョン中で、連続的 に充塡された単量体が、先行した充塡単量体の重 び段階の上又は存在下に重合されて製造された重 合体(この語には単一重合体と同じく共重合体も 含まれる)を意味する。この形式の重合において 引続く段階は先行の段階と接して及び均密に組合 は全粒子含量が第一段階の重合の完了の際と事実 上一定している工程によつてなされる。 即ち新し い即加及び別の粒子は第一段階粒子の形成後は避 **けられる。** .

重合は触媒の存在下に行われ、連鎖移動剤とし て動く重合調整剤を含有しうる。逐次製造重合体 の最終粒子大きさは 1 0 0 ないし 3 0 0nm. の範 囲に変りうる。 望ましくは 1 6 0 ないし 280 mm. の範囲である。

使用される乳化剤の種類及び量は中間段階 ラテ ツクス粒子の粒子大きさを制御する。乳化重合に 通常用いられる石鹼の大部分は所望の結果を与え るに必要な最少量を使用するように充分注意され によつて分離される。もしラテツクスが噴霧乾燥 (spray drying)によつて分離されると乳化剤 の選択はそれが重合体とともに残留するのでより 精密となる。

乳化剤の量は望ましくは全段階に充塡される重 15 合性単量体量を基準にして重量で1%以下望まし くは0.1 ないし0.6 %である。有用な乳化剤には 通常の石鹸、ソジウム、ドデシルベンゼンスルホ ネート、アルキルフェノキシポリエチレンスルホ ネート、ソジウムラウリルサルフェート、長鎖ア 20 ミン塩、長鎖カルボン酸及びスルホン酸の塩等の 如きアルキルベンゼンスルホネートが含まれる。 一般に乳化剤はアルカリ金属及びアンモニウムカ ルポキシレート基、サルフェート半エステル基、 等の如き高度極性可溶性基と結合した炭素原子 8 -22の岸化水素基を含有する化合物である。

各段階の重合媒質は熱的に又は酸化選元(又は レドツクス) 反応で活性化される適当な遊離ラジ い開始剤は過硫酸塩の如き熱的に活性化されるも のであり、これらは最少の無機残留物を残すから である。しかしレドツクス開始剤も使用されう る。適当な油溶性、水溶性開始剤の例はクメ アイト、ジイソプロピルベンゼン ヒドロベルオ キシドーソジウムホルムアルデヒドスルホキシレ ート、1 ープチル パーアセテートーソジウム ヒドロサルフアイト、クメンヒドロペルオキシド ト等の組合せである。水溶性レドツクス開始剤も 又使用されうる;開始剤の組合せはソジウム パ ーサルフエートーソジウムヒドロサルフアイト、 ボタシウム パーサルフエートーソジウムホルム

アルデヒドスルホキシレート等である。

多段逐次乳化重合は約0℃ないし125℃の節 囲の温度で行われ、30℃ないし95℃が望まし い。重合媒質は公知の実施によつて、tードデシ 5 ルメルカプタン、secープチルメルカプタン、 nードデシルメルカブタン等の如き連鎖移動剤を 特に所望のときには低級アルキルメタクリレート 含有段階の分子量を制限するのに含有し得る。遊 離ラジカル開始剤は有効量使用され、これは単量 て満足に使用され、重合体は凝固 (coagulation) 10 体、温度及び添加方法によつて変るがしかし一般 には開始剤の量は単量体の充塡量を基準にして各 重合、段階において重量で約0.001ないし2男 で変るが全段階中の単量体の全量を基準にして重 量で約5%を超えるべきではない。

> さらに重合後組成物に、メチル又はフェニルサ リシレートの如き光安定剤、ヒドロキノン又はア ミン型のゴム老化防止剤の如き酸化防止剤、充填 剤、着色物質等がこの分野で良く知られているよ うに添加される。

本方法の第一段階は炭素原子1ないし4望まし くは炭素原子1を有するアルキル基のアルキル メタクリレート、スチレン、置換スチレン、アク リロニトリル、メタクリロニトリル及びそれらの 組合せからなる群から選択された単量体70ない スルホネート基、ホスフエート 部分エステル基 25 し100重量パーセント、他の共重合性モノエチ レン性不飽和単量体0ないし30重量パーセント、 共重合性多官能架橋性単量体 0 ないし 1 0 重量パ ーセント及び α , β -不飽和カルボン酸又はジ酸 のアリル、メタリル又はクロチルエステルの如き カル発生重合開始剤の有効量を含有する。望まし 30 共重合性グラフト単量体 0 ないし 1 0 重量パーセ ントの混合物の重合生成物である。適当なアルキ ルメタクリレートの例には望ましいものであるメ チルメタクリレート、エチルメタクリレート、イ ソプロピルメタクリレート、 secーブチルメタク ンヒドロペルオキシドーソジウム メタピサルフ 35 リレート、 t ープチルメタクリレート等が含まれ る。置換スチレンの適当な例はαーメチルスチレ ン、モノクロロスチレン、tープチルスチレン等 である。第一段階単量体混合物はアルキルメタク リレート、スチレン、置換スチレン、アクリロニ ーソジウム ホルムアルデヒド スルホキシレー 40 トリル、メタクリロニトリル又はこれらの組合せ 85ないし99.9重量パーセント、他の共重合性 モノエチレン性不飽和単量体0.1ないし15重量 パーセント、架橋性単量体 0.0 5 ないし 5.0 重量 パーセント又はグラフト性単量体 0.0 5 ないし

5.0 重量パーセントを有しうる。

この第一段階で形成される重合体は25℃以上 望ましくは60℃又はそれ以上のガラス転移温度 を有さねばならない。ガラス転移温度及びその測 定はポリマー・ハンドブツク (Polymer Hand- 5 る単量体の群をさす。これらの単量体は低級アル book》、パンドラツブ(Bandrup)等、インター サイエンス・パブリツシヤー・ディビジョン・オ プ・ジェー・ウイリー・アンド・サン・インコー ポレーテツド(Interscience Publishers, Div. of J. Wiley and Sons, Inc.) $(1966), P. \Pi - 61 - \Pi - 63;$ リツク・アクリリツク・エステルズ (Monomeric Acrylic Esters), UFN (Riddle), V1 ンホールド・パブリツシング・コーポレーション (Reinhold Publishing Corporation) (1954)、pp58~64及びテー・ジー・ フオツクス(T.G.Fox,) 「ビユレチン、オブ アメリカン・フイズイ ツクス・ソサエティ (Bull.Am. Physios Soc.) 1 巻、 Ka 3, p · 1 2 3 (1 9 5 6) で明らかな如くこの分野 20 を有するものである。アルキルメタクリレート含 においてよく知られている。

透明グレージング物質用に望ましい第一段階は メチルメタクリレート100重量パーセントから 重合される。適当な系の典型的第一段階はアルキ ルメタクリレート99.5 ないし98重量パーセン 25 リレートと事実上同じである、主にアルキルメタ ト及び共重合性多官能架橋性単量体 0.5 ないし 2.0 重量パーセントから重合される。 すべてがア クリル性である系の他の典型的第一段階はアルキ ルメタクリレート70ないし95重量パーセント 及び共重合性モノエチレン性不飽和単量体 5 ない 30 プロピレングリコールジメタクリレートの如きア し30重量パーセントから重合される。他の典型 的第一段階はアルキルメタクリレート70ないし 95 重量パーセント、共重合性モノエチレン性不 飽和単量体5ないし30重量パーセント及び共重 合性多官能架橋性単量体 0.5 ないし 2.0 重量パー 35 ベンゼンであり; 主にアクリロニトリルを含有す セントから重合される。最後の一典型的第一段階 はアルキルメタクリレート98ないし99.8重量 パーセント及び共重合性 α , β —不飽和カルボン 酸又はジ酸のアリル、メタリル又はクロチルエス テル望ましくはアリルメタクリレート又はジアリ 40 は架橋剤の混合物が望ましい。 ルマレートの0.2ないし2.0 重量パーセントから 重合される。

『共重合性モノエチレン性不飽和単量体』なる 語は本分野でよく知られ、特許第3224996号;

第3284399号;第3284545号; 第3288886号;第3424823号; 第3485775号及び第3536788号によ つて明らかな如く明瞭なものとして認識されてい キルアクリレート及びメタクリレート、低級アル コキシアクリレート、シアノエチルアクリレート、 アクリルアミド、ヒドロキシ低級アルキルアクリ レート、ヒドロキシ低級アルキルメタクリレート、 10 アクリル酸、メタクリル酸等の如きアクリル性モ ノマーでありうる。

『多官能架橋性単量体』なる語は又よく知られ ており明瞭なものと認められている群をなす。明 細書及び特許請求の範囲に用いられているように 15 * 多官能 架橋性単量体 * はジ官能又はビ官能架 橋性単量体、即ち二つ以上の反応性又は官能基を 含有する架橋性単量体同様二つの反応性又は官能 基を含有する単量体を含む。この単量体はそれが 存在している特定重合段階を均一に架橋する能力 有第一段階の場合にはこの能力を有する架橋性単 量体は重合反応において平等に結合し、及び反応 の完了の程度には無関係なものである。換言すれ は、その消費割合は、主単量体、アルキルメタク クリレートを含有する第一段階の架橋性単量体と してはエチレングリコールジメタクリレート; 1, 3ープチレングリコールジメタクリレート;1, 4ープチレングリコールジメタクリレート、及び ルキレングリコールジメタクリレートの使用が望 ましい;主にスチレン又は置換スチレンを含有す る第一段階には望ましい架橋単量体はシビニルベ ンゼン又はトリピニルベンゼンの如きポリビニル る第一段階ではエチレングリコールジアクリレー ト、1,3-又は1,4-プチレングリコールジ アクリレート等の如きアルキレングリコールジア クリレートが望ましい;単量体の混合物の場合に

第一段階及び/又は逐次生成重合体の次の段階 はグラフト性単量体を含有する単量体混合物から 重合されうる。これらのグラフト性単量体には共 重合性の α , β - 不飽和カルボン酸又はジ酸のア

リル、メタリル又はクロチルエステルよりなる。 望ましいグラフト性単量体はアクリル酸;メタク リル酸、マレイン酸及びフマル酸のアリルエステ ル である、他の適当なグラフト化剤はオーエンス (Owens) の特許顧昭 45-120560号 5 橋性単量体 0 ないし 5.0 重量パーセントの混合物 (1970年12月28日出願) によつて開示さ れている。

グラフト化剤の重要な特性は不飽和基の単量体 のエステル部分に対する関係である。エステルの 共範不飽和酸の部分はそれが使用される特定段階 10 0.5 ないし 3 0 重量パーセント、架橋剤 0.0 5 な の重合におけるアリル、メタリル又はクロチル基 よりはるかに早く反応しこの段階に化学的に結合 する。このようにアリル、メタリル又はクロチル 基の実質上の部分は次の段階の重合の間、反応に 有効に存在して、2段階の間にグラフト結合を与15 ないし99.5重量パーセント、共重合性モノエチ

グラフト化剤の存在しないときでもある種のグ ラフト又は他の架橋が段階の間の附着の上昇を与 える。しかし、多くてもこれは後段の重合体の約 5ないし7名が前段に附着し一般には事実上より20 重合生成物である。重量パーセントは第二段階単 少い。上述のようにグラフト化剤の使用は、次段 階の約5%ないし95%以上の附着が得られる。 附着に影響する要因には、架橋剤の量、グラフト 化剤の量(これはある程度架橋剤として使用する) 段階の相対量及び段階の分子量がある。本発明の25 は分枝鎖でありうるが望ましくは直鎖である。望 目的のために架橋剤及びグラフト化剤の相対割合 はエラストマー段階への第三段階の附着が少くと も20%を与えるように調整されねばならない。 一般には約0.5%のグラフト化剤はこの最少量の 附着を与える。本発明の望ましい実施においては30 ロプレン及び2,3ージメチルブタジェンである。 (B)段階及び(C)段階の間の附着量は約75-100 **多の範囲にあるべきである。**

第二段階においてブタジェン、置換ブタジェン 又はアルキルアクリレート及び他の共単量体は、 もしあれば、第一段階生成物の存在下に重合され35のガラス転移温度を有するこれらのエラストマー る。この第二段階重合は上及び/又は内で物理的 に絡まつて及び少くとも一部は第一段重合によつ て生成した硬質重合体と化学的に結合してエラス トマー重合体段階を形成する。第二段階の間追加 の開始剤は添加されうるが、しかし事実上新しい40 その単畳体が他の重合生成物の不存在下に反応さ 追加の別の粒子は生成されない。

この第二段階はブタジエン、置換ブタジエン、 そのアルキル基が炭素原子1ないし8望ましくは 1ないし 4を有するアルキルアルキレート又はこ れらの組合せ50ないし99.9重量パーセント、 共重合性モノエチレン性不飽和単量体0ないし 49.9重量パーセント、共重合性グラフト性単量 体 0.1 ないし 5.0 重量パーセント及び共重合性加 の重合生成物である。この第二段階単量体混合物 はプタジエン、置換プタジエン、アルキルアクリ レート又はその混合物70ないし995重量パー セント、共重合性モノエチレン性不飽和単量体 いし 5.0 重畳パーセント又はグラフト化剤 0.0 5 ないし5.0重量パーセントを有し得る。望ましく は第二段階はアルキルアクリレート、望ましくは プチルアクリレート、及び/又はプタジエン70 レン性不飽和単量体望ましくはスチレン10ない し25重量パーセント及びグラフト化剤望ましく はアリルメタクリルレート又はジアリルマレート 0.5 ないし 5.0 重量パーセントの単量体混合物の 量体混合物の全重量を基準にしている。

第二段階の適当なアルキルアクリレートはアル キル基中に炭素原子1ないし8、望ましくは1な いし4を有するものである。アルキル基は直鎖又 ましいアルキルアクリレートは n ープチルアクリ レート、エチルアクリレート、2ーエチルヘキシ ルアクリレート及びイソプチルアクリレートであ る。望ましい置換プタジエンはイソプレン、クロ 本段階のエラストマーは25℃又はそれ以下のガ ラス転移温度を有するものである。望ましくは 10℃以下のガラス転移温度を有するこれらのエ ラストマーであり、最も望ましくはー10℃以下 である。これら記載したガラス転移温度は変性剤 のエラストマー部分にのみを指し、エラストマー の粒子上又はその中に物理的又は化学的に附着し た引続く段階又は他の重合体を含んでいないし又 せられたときのエラストマーを特徴づける温度で

共重合性架橋性単量体はエラストマー段階を均 一に架橋する能力を有するものである。主にアル

キルアクリレートを含有するエラストマー段階に 望ましい架橋性単量体はエチレングリコールジア クリレート、1,2-又は1,3-プロピレング リコールジアクリレート及び1,3一又は1,4 ープチレングリコールジアクリレートの如きアル 5 重合の最終の段階としてのエラストマー粒子に最 キレングリコールジアクリレートである。主にブ タジエン又はブタジエン及びスチレンの 重合体の エラストマー段階は望ましい架橋剤としてジビニ ルベンゼン及びトリビニルベンゼンの如きポリビ ニルベンゼンを有する。アルキルアクリレート、10 及び最終硬質物質が別別に製造され後で組合され ブタジエン及びスチレンの組合せは望ましい架橋 単量体として上記したものの組合せを有する。全 アクリル系のすべてに対して望ましいアクリレー トはπープチルアクリレートであり、望ましい共 重合性架橋単量体は1 ,3 ープチレングリコール 15 エラストマー段階の『表面『のグラフト単量体か ジアクリレートである。

共重合性モノエチレン性不飽和単量体及び共重 合性グラフト単量体は第一段階の形成に適当なも のとして記載したものに加えてスチレン、 置換ス アルキルメタクリレートである。

第二段階においてヒドロキシ低級アルキルアク リレート、ヒドロキシ低級アルキルメタクリレー ト、アクリロニトリル、スチレン及びαーメチル スチレンの如き置換スチレンは特に適当な共重合 25 0.5 8 をアセトン 2 0 mlで繰返し抽出し、アセト 性モノエチレン性不飽和単量体であり、スチレン 及びヒドロキシエチルメタクリレートは望ましい ものである。

上述したようにエラストマー段階中のグラフト 単量体の含有は完全には理解されていないような 30 0.20即ち20男であることが見出されている。 形で作用する。しかしグラフト単量体の含有は架 橋単量体単独の含有とは違つた形で作用する。ブ チレングリコールジアクリレート、ジピニルベン ゼン等の如き架橋剤の含有はエラストマー段階を 効果的に架橋するが有意なグラフト化を与えない。35 は見出されていないけれども約250%の過剰及 本発明の利点を得るためにはエラストマー及び最 終硬質段階の間にグラフト化を与えることが必要 である。本発明のエラストマー段階中のグラフト 単量体の含有は、透明及び半透明物質において当 初又は水、温度変化及び/又はストレス曝露によ 40 4を有する望ましくは炭素原子1のアルキルメタ るヘイズ値を減少する;不透明物質においてはグ ラフト化剤の含有は温度変化及び/又はストレス 🕆 によつて生ずる色の変化を減少する。グラフト単 量体はエラストマー及び硬質相の間の界面にヘイ

ズの生成がミクロボイドの生成のないよう効果的 に除去するように影響すると仮定される。繰返す がこの仮定は未証明であり拘束されると考えるべ きではない。本発明の利点はエラストマー段階が 終の硬質熱可塑性プラスチツクが充分附着しない ような余りにも少量のグラフト単量体とともに重 合されたとき、又はエラストマー上に最終硬質段 階が全く重合されないとき即ちエラストマー段階 たときには実現しないことが現察されている。

エラストマー段階及び最終硬質段階の間の附着 の度合は多くの要因の函数であるけれども一次的 には最終硬質段階の重合が開始するときの第二の らの残留不飽和度によると信じられている。最終 の両段階の間の附着の度合における重要な考慮は エラストマーに附着する全硬質段階のパーセント ではなくむしろ中間エラストマー段階に附着した チレン及びモノエチレン性不飽和単量体の場合の 20 最終硬質段階の相対的な割合が重要である。附着 した最終硬質物質の量は重合体又は重合体混合物 中の全最終硬質段階物質から抽出できる最終硬質 段階物質の量を差引いたものとここでは考えられ る。抽出できる最終硬質段階部質の量は重合体 ン溶解及び不溶解分の回収及びその量の測定によ つて測定される。附着量は 硬質段階附着量 と エラストマー段階量

> 定義される。所望目的に合致する最少附着量は約 この附着量は本発明によつて製造された組成物に よつて与えられている。約20%以下の附着量で は本発明の利点は急速に減少し約15%以下では かかる利点は事実上失われる。上限の極限の存在 び特に約300%以上の如き非常に高い量では熱 可塑性組成物の流れ特性は有害に影響される。甚 だ硬くかつ粘重な物質は成形が困難である。

最終硬質段階はアルキル基が炭素原子1ないし クリレート、スチレン、置換スチレン、アクリロ ニトリル、メタクリロニトリル及びそれらの組合 せから選択された単量体70ないし100重量パ ーセント、他の共重合性エチレン性不飽和単量体

0ないし30重量パーセント及び共重合性多官能 架橋性単量体 0 ないし 1 0 重量パーセントの混合 物の重合生成物である。これら単量体のすべては 第一段階の生成に適当であると記述したものであ る。最終硬質段階単量体混合物はアルキルメタク 5 リレート、スチレン、置換スチレン、アクリロニ トリル、メタクリロニトリル又はそれらの組合せ 85ないし99.9重量パーセント、他の共重合性 モノエチレン性不飽和単量体0.1ないし15重量 パーセント又は架橋剤 0.0 5 ないし 5.0 重量パー10 重合物を包含する。このように本発明は交互の硬 セントを有しうる。一般には最終硬質段階は多官 能架橋単量体及び/又はメルカプタン、ポリメル カプタン及びポリハロゲン化合物を含む連鎖移動 剤の添加を除いては硬質熱可塑性プラスチツクの 組成と同じ組成を有する。一般にはしかし最終又 15 は第一硬質段階は硬質熱可塑性プラスチツクと同 じ単量体から重合されることが必要でなく又特定 の硬質段階そのものも同じ単量体から重合される 必要もない。全アクリル系の最終段階に使用され うるC, ないしC。 アルキルメタクリレートには 20 メチルメタクリレート、エチルメタクリレート、 イソプロピルメタクリレート、tープチルメタク リレート等が含まれる。適当なアルキルアクリレ ートはアルキル基に炭素原子ないし 4を有するも のである。エチルアクリレートはこの段階に望ま 25 本発明の重合体は少くとも普通に用いられている 「しいアルキルアクリレートである。全アクリル系 の望ましい最終段階はメチルメタクリレート90 ないし99.5重量パーセント及びアルキルアクリ レート0.5ないし10重量パーセントである。最 終又は硬質段階の性質の重要な制限はそのガラス 30 スチツクに開示された割合によつてエラストマー 転移温度(Tg)である。最終段階のTgは25 で以上、望ましくは50℃又はそれ以上であるべ きである。さらに成形粉用には硬質最終段階は 50,000ないし1,000,000の範囲の粘度平 均分子量を有することが重要である。望ましくは 35 分子量は50,000ないし250,000である。 この分子量は最終段階重合の間この分野の公知の 方法によつてメルカプタン、ポリメルカプタン及 びポリハロゲン化合物を含む連鎖移動剤の使用に よつて制御することができる。

透明組成物の製造には屈折率及び/又は段階の 粒子大きさを制御することが重要である。かかる 重合体の屈折率の制御は異なる単量体の種種の割 合のパランスによつて達成され、粒子の大きさの 制御は乳化剤の種類及び量、開始剤の種類及び量 及び温度のバランスによつてこの分野の技術者に よく知られている如く達成することができる。

本発明の望ましい逐次生成重合体は非エラスト マー第一段階、第二のエラストマー段階及び最終 の比較的硬質段階からなる三段階物質である。し かし少くとも三つのかかる段階が硬質段階、エラ ストマー段階、硬質段階が逐次存在する限り、本 発明は広い範囲において3以上の段階の逐次生成 質及びエラストマー段階のいくつかの中間段階を 有する組成物又は異なる割合で異なる単量体又は 同じ単量体から重合されたいくつかの初・中間又 は最終段階を有する組成物を包含する。

逐次生成重合体は他の硬質熱可塑性プラスチツ ク一般には重合体の最終硬質段階と同じ性質の硬 質熱可塑性プラスチツクのその衝撃性を変性する ための添加剤として使用される。かかる場合重合 体は処理性、加工性、分散性において先行技術物 質より優れている。タツク (tack)及び粘着性の ため最終エラストマー段階を有する添加物が硬質 熱可塑性プラスチツクにブレンドされるとき非常 な困難を生ずる。本発明の重合体は粘着でなく又 粒子は通常の処理条件で重合しない。このように 意味でのエラストマーの『マスター・パツチ (master - batch) に類似すると考えられる。 衝撃耐性を与えるのは逐次生成重合体のエラスト マー段階であるので、重合体は硬質熱可塑性プラ 段階の使用割合が与えられるような割合で添加さ れ、又重合体の硬質段階はかかるブレンドの割合 を決定する全硬質熱可塑性プラスチツクの一部と 考えられる。

逐次生成重合体及び硬質熱可塑性プラスチツク のブレンド中のエラストマー段階の量はエラスト マーの種類、硬質熱可塑性重合体の種類、及び最 終生成物の所望物理的性質によつて大きく変化す る。一般に加工及び物理的性質の有意なかつ商業 40 箇に重要な改良を与えるために成形組成物中に少 くとも1.0重量パーセントのエラストマー段階を 含有することが望ましい。エラストマー濃度が 50重量パーセントを超えて増加するにつれ、組 合せの種の物理的性質の逆の影響がある。高エラ

ストマー濃度で逆に影響される物理的性質にはモ ジユラス、硬さ、髙温収縮及び透明処方における ニゴリが含まれる。望ましくは、エラストマー段 階の含量は成形又は熱成形性組成物の重量の2な いし35パーセントの範囲であり、より望ましく5 体エマルジョンと単に混合して製造することがで は15ないし35重量パーセントの範囲、最も望 ましくはプレンドの20ないし30重量パーセン トの範囲に存在することである。全多相逐次生成 重合体の熱可塑性プラスチツクに対する割合から みると本発明の組成物は熱可塑性プラスチツク約 10 製造するのに用いられる単量体系は次いで直接サ 10ないし96望ましくは40ないし85重量パ ーセント及び逐次生成重合体90ないし4望まし くは15ないし65重量パーセントを含む。

多段重合体及び硬質熱可塑性プラスチツクのブ レンドは公知のいずれの方法によつても達成され 15 される。 る。硬質熱可塑性プラスチツク又は重合体は硬質 熱可塑性プラスチツクの製造に用いられる単量体 混合物又は単量体一重合体シラツプ状混合物中に 重合体を懸濁して製造され、これらはともに所望 の硬質熱可塑性重合体を生ずる。重合体はキャス 20 からなるグループから選択された単量体の主要部 テイング (casting) 混合物中に水又は有機化合 物中のエマルジョン、サスペンジョン又はディス パージョンの形で入れられることができる。水又 は有機化合物はキヤステイングの前又は後に除去 して硬質熱可塑性プラスチツクにすることができ 25 る。本明細書における種類及び使用される硬質熱 る。重合体硬質熱可塑性プラスチツクのプレンド は成形用組成物を製造するために押出機、ロール・ ミル又は類似装置中で良分散混合物を形成するた め粉砕することができる。重合体及び硬質熱可塑 性プラスチツクは水又は非水系中のエマルジョン、30 せからなる群から選択された単量体及び物理的性 サスペンジョン又は溶液中にある間にプレンドさ れることができ、粒子は水又は有機化合物から凝 固、噴霧乾燥又は公知の分離法によつて分離され 及び介在する乾燥工程で又はなしにさらに処理さ れる。多段階重合体及び硬質熱可塑性プラスチツ 35 クの他の便利なブレンド法は硬質熱可塑性プラス チツク用の未重合単量体中に比較的乾燥凝固した 又は噴霧乾燥した重合体を懸濁させ、単量体がそ こに混合しているエラストマーと重合して硬質熱 可塑性プラスチツクを形成させることによるもの 40 ル群には又ブリツジ (bridge)した又はブリツジ である。次いでパルク (bulk)キヤステイングは 造粒され押出機、ミル又は射出成形装置で加工さ れる。或は又、懸濁した多段重合体を含む単量体 混合物は公知技術によつてガラス又は金属板の間

でシートにキヤスト成形することができる。この 方法はグレージング物質を製造するのに望ましい。

本発明のブレンド組成物は又硬質熱可塑性重合 体のエマルジョン又はサスペンジョンを多段重合 き、これはエマルジョン又はサスペンジョン中で 重合体を製造することによつて達成される。追加 の乳化剤又は懸濁剤が新しい粒子を発生させるの に添加することができる。硬質熱可塑性重合体を スペンジョンに添加され重合される。このように 多段変性剤及び硬質熱可塑性重合体は同一のエマ ルジョン又はサスペンジョン中で製造され、洗滌 分離され直接ーポツトの成形用組成物として処理

本発明の組成物の硬質熱可塑性物質はアルキル 基が炭素原子1ないし4を有するアルキルメタク リレート、スチレン、置換スチレン、アクリロニ トリル、メタクリロニトリル及びそれらの組合せ (例えば50以上ないし100%)望ましくは 75ないし100%の単量体混合物から重合され ていることに特徴づけられる。変性なしではこの 種の硬質熱可塑性重合体は満足な衝撃耐性に欠け 可塑性重合体はアルキル基が炭素原子1ないし4 望ましくは1個の炭素原子を有するアルキルメタ クリレート、スチレン、置換スチレン、アクリロ ニトリル、メタクリロニトリル及びそれらの組合 質のよく知られたパランスを与えるための少量、 望ましくは0ないし25パーセントの他のモノエ チレン性不飽和単量体単位のより狭く考えられた 重合体でありうる。

アルキルメタクリレートはアルキル基が炭素原 子1ないし4を含むものであり、望ましくはアル キルメタクリレートはメチルメタクリレートであ

本明細書において用いられているようにアルキ していないシクロアルキルが含まれ、一方アリル 群にはアラルキル及びアルカリルが含まれる。こ れらの基はすべて置換又は未置換でありうる。

置換スチレンにはαーメチルスチレン、ビニル

トルエン、ハロスチレン、tーブチルスチレン等 が含まれる。望ましくはスチレン及びαーメチル スチレンである。

置換アクリロニトリルにはメタクリロニトリル、 αーメチレングルタロニトリル、αーエチルアク 5 に添加重合体に使用されるものである。これには リロニトリル、αーフエニルアクリロニトリル等 が含まれる。望ましくはアクリロニトリル及びメ タクリロニトリルである。

これらの硬質熱可塑性プラスチツクは多くの一 般用には約20℃以上、望ましくは約50℃以上 10 るものが使用できる。紫外線安定剤の例には種種 の熱変形温度を有する。

本発明の適当な硬質熱可塑性プラスチツクには アルキル基が炭素原子1ないし4望ましくは1個 の炭素原子を有する アルキルメタクリレート、ス チレン、置換スチレン、アクリロニトリル、メタ15 の公知の種類の如き潤滑剤、アントラキノン・レ クリロニトリル及びそれらの組合せからなる群か ら選択された単量体50以上ないし100パーセ ント及び他のアルキル及びアリールメタクリレー ト、アルキル及びアリールアクリレート、アルキ ル及びアリールアクリルアミド;ハロゲン、アル 20 ガラス繊維、炭酸マグネシウム等の如き充塡剤及 コキシ、アルキルチオ、シアノアルキル、アミノ、 アルキルチオールエステル及び他の置換体、ビニ ルエステル、ピニルエーテル、ピニルアミド、ビ ニルケトン、ビニルハライド、ビニリデンハライ ドの如き置換アルキル及びアリールメタクリレー25 ト及びアクリレート、及びオレフインの如き共重 合性モノエチレン性不飽和単量体 0 ないし 5 0 パ ーセント以下の共重合体、三元重合体(ターポリ マー)、及び四元重合体(テトラポリマー)が含 まれる。一般には選択された共単量体系は軟くな30の物質が含まれる。 るので所望の硬さ特性を保持するためにはより少 量が使用される。

ここに特許請求の範囲としているように組成物 には生成物を安定化する及び酸化、熱、及び紫外 線劣化を抑制する化合物及び物質が含有されるの 35 が通常慣例である。この実施は本発明の範囲に含 まれ使用する安定剤は通常インターポリマー (interpolymer)組成及びインターポリマー組 成の他物質とのブレンド物に組込まれる。安定剤 は組成及び/又は組成がブレンドされる物質が形 40 成される重合工程から最終製品を形成する最後の 段階にも含まれることができる。安定剤は物質が 保護されることができる前の劣化の促進を防止す るためかかる重合体の寿命の早期に含有されると

とが望ましい。従つて望ましい実施は、もし適合 できるなら重合工程に又は重合から得られた重合 体エマルジョンに安定剤が含まれることである。

本発明の物質に有用な酸化及び熱安定剤は一般 例えばヒンダード(hinderd) フエノール、ヒド ロキノン、ホスフアイト及びこれらの群の多種の 置換物及びそれらの組合せが含まれる。

紫外線安定剤も又添加重合体に一般に使用され の置換されたレゾルシノール、サリシレート、ベ ンゾトリアゾール、ベンゾフエノン等が含まれる。 本発明の物質の他の含有物にはステアリン酸、 ステアリンアルコール、エイコサノール、及び他 ツド等の如き有機染料、フタロシアニン・ブルー 等の如き有機顔料及びレーキ及び二酸化チタン、 硫化カドミウム等の如き無機顔料を含む着色剤、 カーボン・プラツク、無定形シリカ、アスベスト、 び特殊エクステンダー(extender) ジオクチル フタレート、ジベンジルフタレート、ブチルベン ジルフタレート、炭化水素油等の如き可塑剤が含 まれる。

かかる物質の若干についてのみ特に述べたけれ ども他のものを除外しようとするものではなく、 記述は単に例示にすぎず、各種の添加剤は普通で あり、この分野でよく知られているように本発明 の物質中の含有に等しくよく適合する非常に多く

本発明の物質中のかかる含有はこの分野の通常 の技術者によく知られた技術によつて、普通に使 用される割合で製造のどの段階でもなされること ができる。

本発明の実施のこの分野の技術者の理解に資す るために次の操作態様が例示的に示される。特記 なき限り部及びパーセントは重量による。実施例 において次の略語が使用される: アクリロニトリ ル(AN)、アリルメタクリレート(ALMA)、 ブチルアクリレート(BA)、ブタジエン(Bd)、 ブチレングリコールジアクリレート(BDA)、ジ アリルマレート(DALM)、ジビニルベンゼン (DVB)、エチルアクリレート(EA)、メチル メタクリレート(MMA)、αーメチルスチレン

(α-MeS) 及びスチレン (S.)、斜線//は共重 合して単一段階を形成する選定された単量体を分 けるのに使用され、二重斜線(//)は異なる段階 の単量体を分ける。とこに使用されたASTM法及 びVHIT試験はオーエンスの特願昭45ー 120560号(1970年12月28日出願) に与えられている。

奥施例 1

本実施例はMMA/DALM/BA/BDA/DALM/ MMA/EA; 25/0, 06/50/0.1/0.4/24/1 (重量部)組成の多段逐次生成重合体の製造を例 示する。

メチルメタクリレート25部及びジアリルマレ ート 0.0 5 部の充塡単量体は乳化剤としてソジウ ムジオクチルスルホスクシネートを用い、 pHを 15 シートを与える。 制御するため炭酸カリウムを用いて水中に乳化さ れる。充塡単量体は過硫酸カリウムを用いて高温 で重合される。ブチルアクリレート50部、1, 3ープチレングリコールジアクリレート0.1部及 びジアリルマレート0.4部の第二充塡単量体が次20重合体とのインターポリマーのプレンドにおける いで予め形成された重合体エマルジョンに添加さ れ、新しい粒子の有意数の形成を防止するため添 加石鹼量を制御して過硫酸カリウムを用いて高温 で重合される。次いでメチルメタクリレート24 部及びエチルアクリレート 1.0 部の第三充塡単量 25 (Owens) の方法 (特願昭 4 5 - 1 2 0 5 6 0 号) 体が上記重合体エマルジョンに添加され高温で過 硫酸カリウムを用いて重合され、この間添加石鹼 景は新粒子の有意数の形成を防止するため制御さ れる。硬質ポリ(メチルメタクリレート)相の分 子量を制御するため連鎖移動剤が添加されうる。30 コアインターポリマーは硬質コアなしで製造され 重合体は凝結又は望ましくは噴霧乾燥によつて分 離される。

この硬質コア熱可塑性物質はポリ(メチルメタ クリレート)成形用粉木ベレツト(MMA/EA =

96/4)50%と溶融温度300℃、ダイ圧力 8 5 0 psig で押出機中のプレンドによりプレン ドされ、エラストマー25.1%を含有する半透明、 硬質熱可塑性プラスチツクを与える。次いで試験 5 片はブレンドから射出成形される。曲げ弾性率 (flexural modulue)190000psi; アイゾ ツトノツチ付衝撃値 0.8 4 ft.lb/in/ツチ (23°); 0.66 ft. lb/in/ ">(0°) 及び0.59 ft.lb/inノツチ(ー18℃)(す 10 ペて1/4パーで測定);23℃で全白色光透過 31%、ヘイズ62%、0℃及び10℃で又は 80インチ・ポンドで衝撃されたときにこの両者 の変化は5%以下である。ベレツトはシートに押 出され上に示したと同じ性質を有する清澄半透明

奥施例 2-7

一連の多段逐次生成インターポリマーが本発明 のヘイズ耐性・高衝撃硬質熱可塑性プラスチツク を例示するために製造されている。硬質熱可塑性 最終硬質段階の量の影響を示すために組成が変化 されている。実施例1の手順に従つて6種の異な る組成物が製造され試験されている。結果は第1 表に報告されている。第1表にはオーエンス によつて製造された硬質熱可塑性重合体の硬質コ ア(第一段)のない2段階インターポリマーのブ レンドの試験データも含まれている。第一表のデ ータから最終硬質段階の10%以上を有する硬質 た物質より優れ、又最終硬質段階10%又はそれ 以下を有する多段逐次製造物質より優れているこ とが明らかである。

表
_
眂

			硬質熱可塑性プラスチック	・ラスチツ		曲げ弾性率							
	硬質コア熱可塑性物質		植成	W.	エラスト	X10-3	e (VHIT in · 1d	in·1d	· _,	•		
实施例為	超	重量%	MMA/EA=製造	X10-3	重盘%	ps i	アイント帯ストレス	ストンス	61.31	ペイ イグ	ж %		
	MMA/ALMA/BA/S/ALMA/MMA/EA								クラッ	۵ ا	230	202	2
87	30/006/405/95/1.0//192/08	20	96/4ITW/37	110	2 5.2	179	1.14	09	100	6.3	0.9	6.5	3
က	37.5/0.075/38.5/9/0.95/144/0.6	5 2.6	96/4 1917	120	25.2	I	0.80	80	120	5.2	2.0	5.7	
4	40/008/405/95/10/996/04	20	96/4 1917	120	25.2	1	0.33	40	8 0				
ស	42.5/0.085/42.5/10/1.05/4.8/0.2	20	96/4 1017	120	2 6.5	1	0.25	30	9				
9	MMA/ALMA/BA/S/ALMA=	50	96/4 1007	120	27.7	1	0.15	ı					
	45/0.09/44.55/10.45/1.1												
7	MMA/ALMA/BA/S/BDA/ALMA/MMA/62.5	6 2.5	6/4 1017	120	25.2	210	0.80	9	120				
	EA=												
	30/0.06/324/7.6/0.2/0.4/28.8/1.2									•			
	BA/S/HPMA/BDA/ALMA/MMA/MA	4 2.9	6/4 1947	155	30	210	0.70		09	1 2.3	3.9	1 1.2	
	564/126/10/0.35/0.14/28.5/1.5		·								•		24

20

26

実施例 8

MMA/ALMA/BA/S/BDA/ALMA/MMA/ EA=30/0.1/33/7/0.1/0.7/28.5/5/1.5 の組成の重合体を含有するエマルジョンが実施例 1の手順によつて製造される。エマルジョンは水 5 添加される。水はブレンド物から液相に除去され 100部当り塩化カルシウム2部を含有する急速 に攪拌されている水溶液 1 0 部にエマルジョン 1 部を注加して凝固される。コアギュラムは水で洗 **滌され乾燥される。次いで乾燥した多段逐次重合** した重合体(62.5部)が押出機中で実施例1の10 硬質熱可塑性プラスチツク37.5部とブレンドさ れ押出物はペレツトに切断される;試験片はペレ ツトから射出成形される。ブレンド物の物理的性 質は次の如くである。

210000 psi 曲げ弾性率 0.85 ft. lb/in アイゾツト衝撃値 ノツチ (1/4" ペー、23°C) この物質は80インチ・ポンドの力を有する投 射物で衝撃を与えたとき永久白化は示さない。 実施例 9

MMA/DALM/BA/S/DALM/MMA/EA= 20/0.05/41/9/1.0/28.8/1.2の組成の多段 逐次生成重合体はエマルジョン中で製造され、こ れは分子量150000MMA/EA=96/4共重 合体を含有する等量のエマルジョンとブレンドさ 25 れる。エマルジョン・ブレンド物は噴霧乾燥され て粉末を与えこれはロール・ミルで溶融される。 ロール・ミルからの物質は、スラブ(slab)に圧 縮成形される。物理的性質は次の如くである。

200000psi *30* 曲げ弾性率 0.7 5 ft. lb/in/ツチ アイゾツト衝撃値 $(1/4" \times -, 23°)$

この物質は全白色光の88%を透過し、23℃ で6.0 多ヘイズ、0℃で6.3 多ヘイズ、70℃で 6.5 %へイズ及び7 2時間50℃で相対湿度100 35 15/0.5/25の組成の多段逐次生成重合体は実施 **%に曝露して7.2%ヘイズを有した。60インチ** ポンドの適用力で永久ストレス白化は示さない。 実施例 10

MMA/1,3-ブチレン グリコール ジメタク リレート/DALM/2-エチルヘキシルアクリレ 40 ンドされ、ブレンド物は次の性質のスラブに圧縮 - | S / ALMA/MMA/EA = 37.5/0.4/0.1/38.5/9/1.4/14.4/0.6の組成の多段逐次製造 熱可塑性重合体は実施例1の手順で製造される。 インターポリマー・ラテツクスは25%のエラス

トマー段階を含有するブレンドを与えるために昇 圧に維持したスターブド・スクリユー

(starved - screw)脱揮発物押出機中の溶融 した実施例1の硬質熱可塑性プラスチツクに直接 る。少量の残留水分及び未重合単量体は押出機の パレル (barrel)から減圧下にベントされる。ブ レンド物はダイから押出され造粒成形粉を与える ために切断される。

次いでスラブに成形されたものは次の性質を有

185000 psi 曲げ弾性率 アイゾツト衝撃値 0.77 ft.lbs/in (1/4" N-, 23C)DTUFL(264 psi) 80℃ 8 7. 5 % TWLT 5.0% (23℃) ヘイズ 5.2% (0°C) 5.7% (70℃) 無視可能(適用力 80イン

ストレス白化 チ・ポンド)

押出機中のブレンド物はシート・ダイを通して 押出され、磨きロールを通して次の性質を有する 厚み1/8"のシートを与える。

190000 曲げ弾性率 psi アイゾツト衝撃値 1.1 ft.lbs/in ノツチ (1/8N-, 23%)TWLT 8 9. 5 % 3.7% ヘイズ(23℃) DTUFL(264 psi)8.2°C 窓枠に取付けたシートは投石によつて破壊も

永久ストレス白化も示さない。

実施例 11

S/ALMA/Bd/S/ALMA//S= 25/0.1/35/ 例1の手順で製造されている。 熱可塑性プラスチ ツク・エラストマー含有重合体は噴霧乾燥で分離 されエラストマー相20重量パーセント濃度を与 えるためロール・ミルでポリスチレン粒子とプレ 成形される。

250000 曲げ弾性率 アイゾツト衝撃値 0.8 ft.lb/in ノツチ (1/4" N-, 23C)

ピカー軟化温度 200F

この物質は23℃で10多ヘイズの清澄であり、 これは0℃又は70℃で評価量の変化がない。 70インチ・ボンドの適用力でストレス白化がな

奥施例 12

MMA/ALMA/イソプチル アクリレート/ ALMA/MMA/S=30/0.06/40/0.8/26/4 の組成の多段逐次製造熱可塑性重合体は実施例 2 の手順で粉末として製造される。粉末(50部) 10 ドの力をうけたとき永久色変のないことを示す。 は分子量125000のMMA/S=65/35 共重 合体50部とロール・ミルでブレンドされ、ブレ ンド物は圧縮成形され、弾性率20000、ア イゾツト・ノツチ付衝撃値 1.0 ft.lb/in ノツ チ(1/8"バー)、ビカー軟化温度190ドの15 ポリマー粉末はB/AN=68/32の共重合体 半透明スラブを与える。この物質は80インチ・ ボンドの力で衝撃されたときヘイズの永久上昇は 示さず、60インチ・ポンドの力で衝撃されたと きに顔料充填試料は色の永久変化を示さない。 奥施例 13 20

本実施例はMMA/ALMA/Bd/ALMA/MMA/ ALMA/S/AN=30/0.06/40/0.2/10/0.1/ 14/6の組成の多段逐次製造重合体の製造を例示 する。メチルメタクリレート30部及びアリルメ タクリレート0.06部の充塡単量体は乳化剤とし25 実施例 15 てソジウムドデシルベンゼンスルホネートを使用 して水に乳化される。開始剤として過硫酸ナトリ ウムを使用し高温で重合される。第二段階は第一 段階の存在下にソジウムホルムアルデヒドスルホ キシレート 0.1 2 部及び乳化剤 4 部を添加し次い 30 する。 でブタジエン 40 部及びアリル・メタクリレート 0.2部及びクメンヒドロベルオキシド0.24部の 混合物を徐徐に添加して重合される。第三段階は 初めの 2 段階の存在下に過硫酸ナトリウム、メチ ルメタクリレート10部及びアリルメタクリレー 35 て水中に乳化される。充塡単量体は高温で過硫酸・ ト0.1 部を、新しい粒子の有意数の生成を防止す るために加えるソジウムドデシルベンゼンスルホ ネートの量を制御しながら添加して重合される。 第四段階は次いで先行した3段階の上に高温で、 スチレン14部及びアクリロニトリル6部の混合 40 温で新粒子の有意数の生成を防止するために加え 物を、新しい粒子の有意数の生成を防止するため に加えるソジウムドデシルベンゼンスルホネート の量を制御しながら過硫酸ナトリウムで重合され る。重合体はエマルジョン100部を塩化カルシ

28

ウム10部を含有する水500部に混合物を攪拌 しながら注加し、コアギユラムを洗浄乾燥して粉 末として分離される。エラストマーを含有する重 合体粉末(40部)はS/AN=70/30の共 5 重合体60部とロール・ミルでブレンドされる。 ブレンド物は圧縮成形され、アイゾツト衝撃値 (ノツチ付)(1/8" パー)3.5 ft.lb/in ノツチ及びピカー温度200Fを有する不透明ス ラブを与える。顔料充塡試料は80インチ・ボン **実施例** 14

MMA/A LMA/BA/A LMA/S/AN=30/0.1/ 40/1.0/28/12 の組成の多段逐次生成重合体 粉末は実施例2の手順で製造分離される。インタ とロール・ミルでブレンドされ、ブレンド物は次 の性質の不透明スラブに成形される。

アイゾツト・ノツチ 1.1 ft. lb/in ノツチ 付衝擊值

(1/8" パー)

200F ピカー軟化温度

引張りヤング率 350000 psi

顔料充填試料は60インチ・ポンドの力で衝撃 を与えて永久色変を示さない。

本実施例は S/AN/ALMA/BA/ALMA/S/ ALMA/BA/ALMA/S/AN=14/6/0.04/25 /0.5/10/0.3/25/0.75/14/6の組成の5段 階逐次製造熱可塑性インタポリマーの製造を例示

スチレン14部、アクリロニトリル6部及びア リルメタクリレート 0.0 4 部の充塡単量体はソジ ウムジオクチルスルホスクシネートを乳化剤に用 い、pHを制御するため過硫酸ナトリウムを用い ナトリウムを用いて重合される。次いでブチルア クリレート25部及びアリルメタクリレート0.5 部の第二充塡単量体は予め重合した重合体エマル ジョンに添加され、過硫酸ナトリウムを用いて高 られる乳化剤の量を制御して重合される。次いで この重合手順はスチレン10部及びアリルメタク リレート0.3部の第三の単量体充填、ブチルアク リレート25部及びアリルメタクリレート0.75

及びアクリロニトリル6部の第五の単量体充塡で

繰返される。5段階逐次製造重合体40%を含有

するエマルジョン50部にS/AN=70/30

部が添加される。エマルジョン・ブレンドは急激 に攪拌された塩化カルシウムの2%水溶液5容量

にプレンド1容量を注加して凝固される。約14.7

50エラストマーを含有する分離した熱可塑性プ

を通して厚み約1/8"のシートに押出される。

ラスチツクは水で洗浄され真空で乾燥され、ダイ 10

·ポリマーは実施例 p の手順によつてエマルジョン 中に製造される。5段階逐次生成インターポリマ ー40 多を含有するエマルジョン 5 0 0 部に MMA/S/EA=74/25/1の組成の三元重合体 の共重合体 40 %を含有するエマルジョン1200 5 40 %を含有するエマルジョン 50 0 部が添加さ れる。エマルジョン・ブレンドは噴霧乾燥され、 噴霧乾燥された粉末は可溶性物質を除去するため 水で洗浄され、次いで粉末は乾燥され、次の性質 を有する厚み約1/8"のシートに押出される。

30

アイゾツト衝撃値 1.3 ft。lb/in ノツチ

(1/8" バー、23℃)

90℃ DTUFL

87% TWL T

ヘイズ 11%

250000 psi 曲げ弾性率 アイゾント衝撃値 4 ft.lb/in ノツチ (ノツチ付1/8"パー)

DTUFL(264psi)180F

物理的性質は次の如くである。

TWLT 8 5 % ヘイズ 1 2 %

ヘイズ値は低又は高温で事実上不変化であり、 試験片が 7 フィート・ポンドの力を受けたとき永 20 ALMA/BA/ALMA/AN/S=10/10/0.05/ 久変化は受けない。

実施例 16

実施例2の手順で製造分離されたMMA/S/ AN/ALMA/Bd/S/DALM/MMA/S/AN= 12.25/12.25/10.5/0.1/33/12/0.5/7/ 25 ン250部に40部のAN/S=70/30共重 7/6の組成の3段階逐次生成インターポリマ - (30部)がMMA/S/AN=35/35/30の 三元重合体70部とロール・ミルでプレンドされ る。約13.5%のエラストマーを含有するプレン

ド物は次の性質の清澄なスラブに圧縮成形される。30

曲げ弾性率 270000 psi アイゾツト衝撃値 4.5 ft.lb/in ノツチ

(1/8" N-, 23℃)

DTUFL 8 0°C

TWLT 86%

ヘイズ 1 1 %

ヘイズは0℃及び70℃で変らない。試験片が 80インチ・ポンドの力を受けてヘイズの永久増 加はない。

実施例 17

 $MMA/\alpha MeS/ALMA/BA/ALMA/MMA/\alpha$ $-MeS/ALMA/BA/ALMA/MMA/\alpha-MeS/$ EA=15/5/0.05/20/0.6/15/5/0.4/20/ 0.6/14/5/1の組成の5段階逐次生成インター

15 ヘイズは高又は低温で事実上変化がなく、試験 片が70インチ・ポンドの力を受けたとき永久増 加は受けない。

実施例 18

MMA/S/ALMA/BA/ALMA/MMA/S/ 25/0.75/5/5/0.2/25/0.75/14/6の組成 の5段階逐次生成インターポリマーは実施例9の 手順によつてエマルジン中に製造される。 40% の 5 段階逐次生成ポリマーを含有するエマルジョ 合体を含有するエマルジョン750部が添加され エマルジョン・ブレンドは噴霧乾燥されて粉末を 与え、これはロール・ミルで粉砕され次いで次の 性質の清澄なスラブに圧縮成形される。

アイゾツト衝撃値 1.1 ft.lb/in ノツチ

 $(1/8" \times -, 23C)$

ビカー軟化温度 8 5°C

8 5 % TWLT

ヘイズ 15%

試験片が70インチ・ポンドの力を受けてもへ イズには永久増加はなかつた。

実施例 19

噴霧乾燥した実施例10の硬質コア熱可塑性物 質50部及びtープチルベルオキシピパレート

40 0.35部及びアゾービスーイソプチロニトリル 0.4部を含有するメチルメタクリレート50部が 非加熱、2ロール、ラバー・ミルで5分間ブレン ドさえる。次いでシートは金属シートの間で加圧 下に究極温度130℃まで重合される。シートは

アイゾツト・ノツチ付衝撃値(1/4%、0.8 ft.lb/ir ノッチ、曲げ弾性率200000 ps iを有し、投石によつて衝撃を与えたときスト レス白化を示さない。 ヘイズは2.4℃で6%であ り、50℃で水中浸漬12日で事実上変化がない。5 実施例 20

MMA/ALMA/BA/S/ALMA/MMA/EA= 30/0.06/32.4/7.6/0.8/28.8/1.2 の組成の 3 段階逐次生成熱可塑性インターポリマーは実施 例1に用いた方法でエマルジョン中に製造される。10 ラテツクスの一部はMMA/EA/t-DDM= 96/4/0.5の共重合体エマルジョンとエラス トマー段階 2 5 名を含有するブレンドを与えるよ うにブレンドされ、エマルジョン・ブレンドは噴 霧乾燥される。噴霧乾燥された粉末は2ロール、 15 白化することを示す。硬質熱可塑性プラスチツク ラバー・ミルで425下で5分間粉砕され次いで シートが圧縮成形され試験される。結果は次表に 実施例Aとして示される。

インターポリマーエマルジョンの一部は噴霧乾 燥されインターポリマー粉末 4 5 部はメチル・メ 20 1 タクリレート55部、 tープチルペルオキシピパ レート0.75部及びアゾーピスーイソブチロニト リル 0.0 2 部の混合物中に非加熱の 2 ロール、ラ パー・ミルで懸濁される。次いで混合物はクロム メツキ鋼板の間で高温で重合され、18%のエラ25 ストマー段階を含有するシートを与えこれは試験 される結果は次表に実施例Bとして示される。

次の手順は本発明の範囲にない組成物の製造を 例示する。

MMA/ALMA/BA/S/ALMA=45/0.09/44.55/10.55/1.1の組成 の2段階インターポリマーは実施例1の方法で第 三段階を省略してエマルジョン中に製造さえる。 エマルジョンは噴霧乾燥され、噴霧乾燥されたイ ンターポリマー45部はメチルメタクリレート単35 量体55部、tーブチルペルオキシイソブチレー ト0.175部及びアゾーピスーイソブチロニトリ ル0.02部の混合物中に非加熱のロール・ミルで 粉砕して懸濁される。次いで混合物は25多のエ ラストマー段階含有するシートを与えるようにク 40 ロム・メツキ鋼板の間で高温で重合され試験され る。結果は次表に実施例Cとして示される。

2段階インターポリマー50部はMMA/EA =96/4の成形粉ペレツト50部と2ロール、

32

ラパー・ミルでブレンドされ、プレンド物はシー トに圧縮成形され試験される。結果は実施例Dと して示される。

	エラストマー 段階 (%)	アイゾント・ノツ 衝撃値 チ付	永久ストレス 白化のインチ・ ポンド
A	2 5	1. 0 6	8 0
В	1 8	0.85	6 0
C	2 5	0.97	1 5
D	2 7. 5	0. 1 5	1 0

これらのデータは組成物Cが妥当なアイゾツト 衝撃値を有するが低いストレスでひどくストレス との硬質最終段階を欠いた2段階インターポリマ ーのブレンド(組成物D)はアイゾツト衝撃値が 乏しく、低いストレスでストレス白化する。

本発明の実施態様を以下述べる。

炭素原子1ないし4を有するアルキル基を有 するアルキル メタアクリレート、スチレン、 置換スチレン、アクリロニトリル、メタクリロ ニトリル及びこれらの組合せから選択された単 量体の硬質熱可塑性重合体又は少くとも一つの これらの単量体の50重量パーセント以上及び 少くとも一つの共重合性モノエチレン性不飽和 単量体の重合体を約10ないし96重量パーセ ント及UKA上記硬質熱可塑性重合体にのべた単 量体80ないし100重量パーセント、共重合 性多官能の架橋性単量体0ないし10重量パー セント及び α , β - 不飽和カルボン酸又はジカ ルボン酸のアリル、メタリル又はクロチルエス テルでありうる共重合性グラフトする単量体 0 ないし10 重量パーセントよりなる単量体混合 物から重合せされた、25℃以上のガラス転位 温度を有する非エラストマーの比較的硬い第一 段階、(B)第一段階を含有する生成物の存在下に ブタジェン、置換ブタジェン、アルキル基が炭 素原子1ないし8を有するアルキル アクリレ ート又はそれらの混合物50ないし99.9重量 パーセント、共重合性モノエチレン性不飽和単 量体 0 ないし 4 9.9 重量パーセント、共重合性 多官能架橋性単量体 0 ないし 5.0 重量パーセン ト及び共重合性のα,β-不飽和カルボン又は

ジカルボン酸のアリル、メタリル又はクロチル 8 エステル 0.0 5 ないし 5.0 重量パーセントより なる単量体混合物から重合された中間のエラストマー段階、このエラストマー段階はさらにも し第一段階を含む生成物の不存在下に単量体が 5 重合されると 2.5 で又はそれ以下のガラス転移 温度を示し、(C)該第一及び該中間段階を含有する生成物の存在下に上記硬質熱可塑性重合体に 述べた単量体混合物の単量体から重合された最終段階、その最終段階はさらに、もし単量体が 10 9 第一及び中間段階を含有する生成物の不存在下に重合されると 2.5 で以上のガラス転移温度を 示すことを特徴とする多段逐次製造重合体 9 0 ないし4 重量パーセントのブレンドよりなる熱可塑性物質。 15 10

- 2 多段逐次製造重合体が、(A)が10ないし40 重量パーセント、(B)が20ないし60重量パー セント及び(C)が10ないし70重量パーセント (パーセントはすべて3段階重合体の全重量を 基準にしている。)であることを特徴とする上20 記1記載の組成物。
- 3 多段、逐次製造重合体が、(A)が20ないし40重量パーセント、(B)が30ないし50重量パーセント及び(C)が15ないし50重量パーセント(パーセントはすべて3段階重合体の全重25量を基準にしている。)であることを特徴とする上記1記載の組成物。
- 4 多段、逐次製造重合体が、メチルメタクリレート100重量パーセントよりなる単量体混合物から重合された非エラストマー硬質第一段階 30であることを特徴とする上記1記載の組成物。
- 5 多段重合体がアルキルメタクリレート99.5 ないし98重量パーセント及び共重合性多官能 架橋性単量体0.5 ないし2.0 重量パーセントの 単量体混合物から重合された第一段階であるこ35 とを特徴とする上記1記載の組成物。
- 6 重合体がアルキルメタクリレート98ないし99.8重量パーセント及び共重合性α,β-不飽和カルボン酸又はジカルボン酸のアリル、メタリル又はクロチルエステル0.2ないし2.0重40量パーセントから重合された第一段階であることを特徴とする上記1記載の組成物。
- 7 共重合性エステルがアリルメタクリレートである上記6の記載の共重合体。

- 8 多段重合体がアルキルアクリレート70ないし99.5 重量パーセント、共重合性モノエチレン性不飽和単量体10ないし25 重量パーセント及び共重合性α,βー不飽和カルボン酸又はジカルボン酸のアリル、メタリル又はクロチルエステル0.5 ないし5.0 重量パーセントの単量体混合物から重合された中間、エラストマー段階別であることを特徴とする上記1記載の方法。
- 10 9 多段重合体がブチルアクリレート、1,3-ブチレングリコールジアクリレート及びジアリ ルマレエートの単量体混合物から重合された中 間段階段であることを特徴とする上記8記載の 方法。
- 15 10 多段重合体がアルキルアクリレート70ない し99.5 重量パーセント、共重合性モノエチレン性不飽和単量体10ないし25重量パーセント及び共重合性α,βー不飽和カルボン酸又はジカルボン酸のアリル、メタリル又はクロチル20 エステル0.5ないし5.0重量パーセントの単量体混合物から重合された中間、エラストマー段階(B)であることを特徴とする上記6記載の組成物。
 - 11 多段重合体がプチルアクリレート、スチレン 及びアリルメタクリレートの単量体混合物から 重合された中間段階 B であることを特徴とする 上記 8 記載の組成物。
 - 12 多段重合体がメチルメタクリレート90ない し99.5重量パーセント及びアルキルアクリレ ート0.5ないし10重量パーセントの混合物か ら重合された最終硬質段階(C)であることを特徴 とする上記1記載の組成物。
 - 13 (C)がメチルメタクリレート及びエチルアクリレートの混合物から重合されている上記 1 2 記載の組成物。
 - 14 多段重合体がメチルメタクリレート90ない し99.5 重量パーセント及びアルキルアクリレート0.5 ないし10 重量パーセントの混合物から重合されている最終硬質段階(C)であることを 特徴とする上記10記載の組成物。
 - 15 ブレンド物がアルキルメタクリレート 50以上ないし100重量パーセントの硬質熱可塑性 重合体よりなる上記1記載の組成物。
 - 16 プレンド物がアルキルメタクリレート70な

いし100重量パーセントの硬質熱可塑性重合体よりなる上記14記載の組成物。

- 17 ブレンド物がスチレン50以上ないし100 重量パーセントの硬質熱可塑性重合体よりなる 上記1記載の組成物。
- 18 ブレンド物がアクリロニトリル50以上ないし100重量パーセントの硬質熱可塑性重合体

36

よりなる上記1記載の組成物。

- 19 事実上、上記16記載の熱可塑性組成物よりなる成形組成物。
- 20 上記16記載の熱可塑性組成物から製造されたシート。
 - 21 上記 1 6 記載の熱可塑性組成物から製造されたグレージング (glazing)物質。